

令和6年産麦類生育概要および次年度対策について

令和6年8月6日

備前広域農業普及指導センター

1 気象・生育経過等について

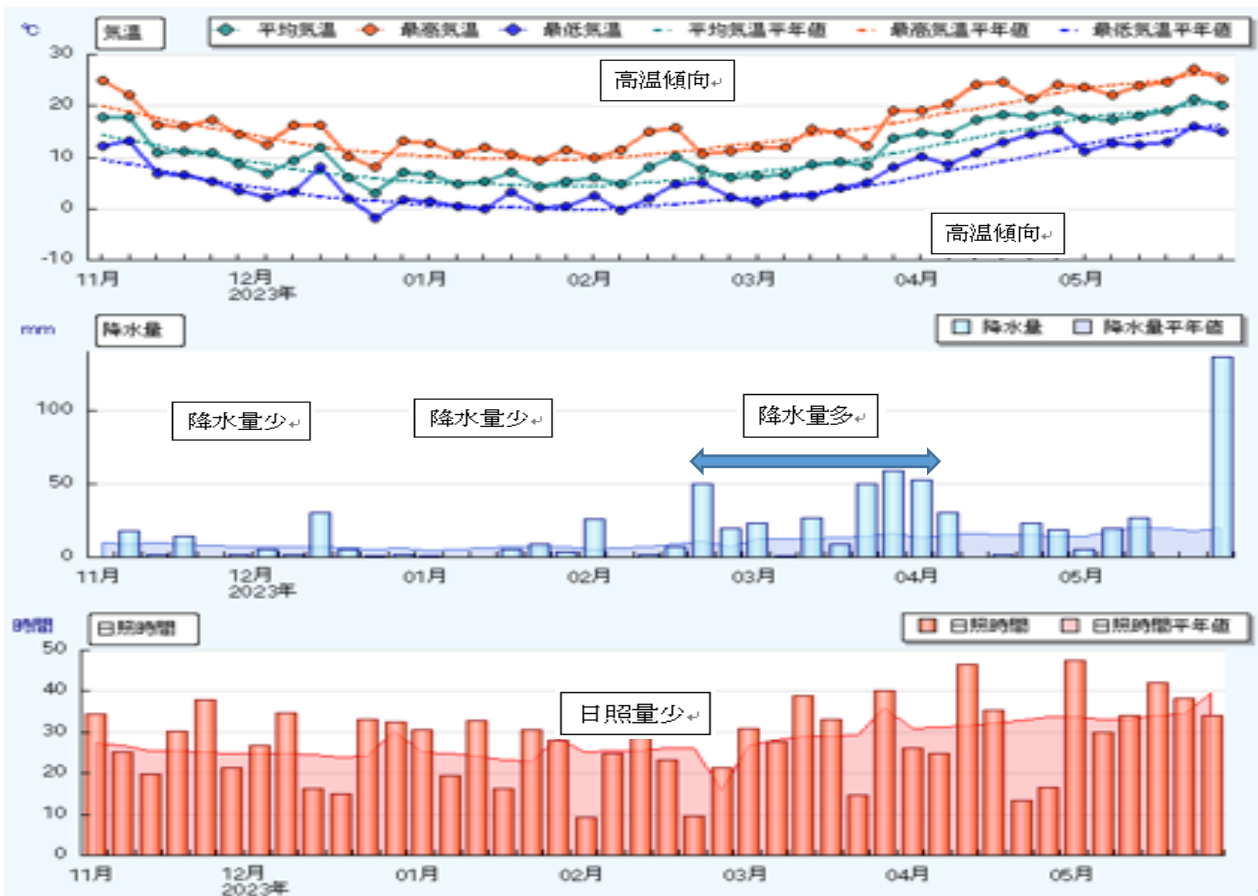


図1 気象の推移（アメダスポイント：岡山）

（生育初期）

- ・11月中旬の播種では苗立ちが良好だったが、下旬以降の播種では過乾燥により発芽が遅れた。
- ・播種後、乾燥と日照不足により初期生育は緩慢だった。

（分けつ期～茎立ち期）

- ・2月以降気温が上昇し、分けつの発生が旺盛となった。
- ・3月は降水量が平年の205%となり、一部は場で湿害が発生した。湿害の影響で茎数は少なく、葉色はやや薄くなった。

（出穂期）

- ・4月は気温が上昇し、降水量は平年の約1.5倍となった。湿害の影響で生育ムラがあるほ場が多く、定期的に降雨があった影響で赤かび病の適期防除が難しかった。
- ・出穂期はサチホゴールドが4/1～4/5、スカイゴールドが4/4～4/8、小麦が4/8～15と平年並み～やや早かった。

（成熟期）

- ・二条大麦、小麦ともに降雨の前に収穫作業を終えた。
- ・生育期間中の湿害の影響で穂数は平年より少なく、粒張りも悪かったため、収量はやや少なくなった。また、刈り始めは低かったタンパク含量は収穫後半になると改善され、おおむね平年並みとなった。

表1 気象対策調査結果

品種	観測地点		播種期	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
サホゴールテン	岡山市南区	本年値	12/1	4/3	5/15	88	6.2	598
		平年値	11/21	3/30	5/19	96	6.0	595
スイゴールテン	瀬戸内市	本年値	11/20	4/8	5/18	77	5.5	640
		平年値	11/24	4/9	5/23	90	5.8	603
ふくほのか	岡山市東区	本年値	11/14	4/9	5/31	89	8.6	538
		平年値	11/21	4/14	6/4	92	8.8	520

品種	観測地点		精麦重 (kg/10a)	屑麦重 (kg/10a)	千粒重 (g)	タンパク 含量(cm)	等級
サホゴールテン	岡山市南区	本年値	321	25	49.1	9.9	大粒1等
		平年値	347	30	50.6	10.0	
スイゴールテン	瀬戸内市	本年値	289	23	43.3	10.2	大粒2等
		平年値	435	38	45.4	10.1	
ふくほのか	岡山市東区	本年値	538	18	36.2	7.7	大粒1等
		平年値	566	3	37.8	8.5	

2 次年度麦類の栽培に向けて

(1) 酸度の矯正

- ・麦は酸性に弱く、土壌 pH が 5～5.5 以下になると下葉の枯れ上がりや上位葉の黄化、著しい生育不良になりやすい。
- ・土壌 pH は 6～7、最低でも 5 以上を目標に石灰質資材を施用して酸性を矯正する。

(2) 排水対策

- ・麦の生育は天候に左右されやすく、特に降雨と排水状況の影響が大きい。そのため排水溝は必ず設置し、降雨があってもできるだけ早く排水できるようにしておく。
- ・水稻の生育中に中干しを十分に行い、ほ場を固めることでほ場の排水性が向上する。

(3) 適期播種

- ・播種期が遅いと生育量の不足による収量の低下、播種期が早いと春先の凍霜害を受けやすくなったり、充実不足などの品質の低下につながる恐れがあるため、二条大麦では 11 月下旬から 12 月上旬、小麦では 11 月中旬から下旬の適期播種を目指す。

(4) 雑草防除

- ・ 2 月下旬頃の生育期除草剤の散布時期に注意する。雑草の生育状況を良く観察し、作業の遅れに注意する。

(5) 適正な施肥管理

- ・生育量が確保でき、穂数が多い場合にはタンパク含量が低下しやすいことから、追肥は生育診断により幼穂の生育進捗を確認した上で適正な量を施用する。
- ・小麦ではタンパク含量向上のため出穂 10 日後頃の実肥の施用を徹底する。